片平学区ローカルSDGsプロジェクト報告書

すみよいまちへ
ここからスタート

片平学区連絡協議会×なごや環境大学

はじめに

ずっと住み続けたくなる街をめざして

緑区の北西部にある片平学区は、縄文・弥生時代の土器が発見された清水寺遺跡や赤塚古墳群などの史跡が残る、歴史と文化の香り高い街です。区内9番目の学区として昭和45（1970）年に誕生しました。

この50年ほどで都市化が進み、街の表情は一変。道路をはじめ都市生活基盤はきれいに整備され、転入者も増加。人口は１万人を超えました。街が発展する一方、人と人とのつながりが希薄になるという新たな課題も見つかることに。2010年２月には学区内で孤独死が発生してしまったのです。

そこで立ち上がったのが、地域を愛し、地域を大切にしている住民たちでした。「地域コミュニティカフェ」の開設、「花いっぱい運動」の展開など、行政と協力してさまざまな活動を推進。ついには環境省より「環境問題に取り組む地域コミュニティ」として認定されるまでになりました。住民主導で盛んに活動が行われる地域へと成長したのです。

2020年以降は、片平学区を住み続けたい街にするためのヒントを学ぼうとSDGsの学習会を開催。SDGsを自分たちの問題として積極的に取り組んでいくことを確認しました。そうした取り組みの中で立ち上がったのが「片平学区ローカルSDGsプロジェクト」。片平学区を「ずっと住み続けたい」と思えるような街にしていくため、住民同士がアイデアを出し合い、SDGsの観点を取り入れた街づくりを実践していくことになりました。

本報告書は2022年８月のキックオフミーティングから2024年１月に「片平ゴールズ」が宣言されるまでの活動内容を記録したものです。同様の取り組みが他の地域に広がった際の参考になればとの思いを込めてまとめました。

あゆみ

2年かけて 学区独自のゴールを定める

片平学区連絡協議会となごや環境大学は2022年度と23年度の2ヵ年にわたり「片平学区ローカルSDGsプロジェクト」の事業を実施。SDGsの理念を踏まえ、持続可能なまちづくりを推進しました。その足跡を振り返ります。

2019年7月
内閣府より、SDGs達成に向け優れた取組を提案する自治体「SDGs未来都市」に名古屋市が選ばれる。

2022年8月9日
名古屋市のSDGs未来都市に向けた活動の一つとして「片平学区ローカルSDGsプロジェクト」がスタート。キックオフミーティングを開催する。→P3

2022年9月17日・18日
近隣にあるショッピングセンター「なるぱーく」と学区の共催イベント「なるみ祭り」に出展し、プロジェクトの活動をアピールする。→P4

同日
来場者で片平学区民を対象に「未来の片平学区はどうあってほしいか」というアンケートを実施する。

2022年10月～11月
学区住民を対象にアンケートを実施する。→P6

2022年11月23日
学校と地域といった観点からSDGsについて考える環境学習会として「～みんなで話そう！～学校×地域 SDGsトーク＆セッション」を開催する。→P4

2022年12月
千鳥丘中学校の1～3年生を対象にSDGsに関するアンケートを実施する。→P6

2023年2月11日
地域の資源（ヒト・モノ・コト）を有機的につなげる思いやりあふれる場の展開を目的とした「KATAHIRA SDGsマルシェ＆トーク」を開催する。→P5

2023年6月24日
2023年度の1回目のワークショップを開催。「自分たちに何ができるのか」をテーマに話し合う。→P9

2023年8月5日・6日
学区の共催による「なるみ祭り」に出展。広くプロジェクトの啓発と参加者誘導を行う。水素エネルギーを利用して、ペットボトルの底を利用したキーホルダー作りのワークショップを実施する。→P10

2023年8月17日
2023年度の2回目のワークショップを開催。これまで実施してきたアンケート調査やミーティングの結果を踏まえ提案された「片平ゴールズ」について意見交換を実施する。→P9

2023年10月25日
前回のワークショップでの意見を踏まえ修正された「片平ゴールズ」について意見交換を実施する。→P9

2023年11月 23日
2回目となるSDGsマルシェを開催。こどもから高齢者まで、多くの人が来場し、秋の1日を楽しんだ。→P11

2024年1月27日
映画上映会&トークセッションを開催。杉野友昭・片平学区連絡協議会会長が「片平ゴールズ」を宣言する。→P12

2022年度の活動

「片平学区ローカルSDGsプロジェクト」のスタート初年度となった2022年度は、種まきの年。ワークショップやイベントを開催し、取り組みをPRしたほか、SDGsに関する意識の啓蒙にも力を入れて行いました。また、住民に対するアンケート調査を行い、片平学区に対する意見や要望を吸い上げました。

ワークショップ

キックオフミーティング

日時：令和4（2022）年8月9日（土）　14:00～15:00

場所：片平ふれあいセンター　大会議室

片平学区の未来について
話し合いました

片平学区でSDGsな街づくりがスタート

学区版「ローカルSDGsプロジェクト」が片平学区でスタートしました。キックオフミーティングの冒頭、片平学区連絡協議会の杉野友昭会長は「名古屋市全体をSDGs志向型の街にするため、暮らしと密接に繋がるSDGsな街づくりを片平学区で進めます」と決意を表明しました。

また、話題提供の時間では、片平学区子育て支援ネットワーク連絡会の小林照美代表が、同会の成り立ちや主な活動内容を紹介。続いて行われたみんな事ワークショップでは、参加者より同会に対する温かい励ましの言葉が多く寄せられたほか、片平学区の未来像についてさまざまな意見やアイデアを出し合いました。

イベント

なるみ祭り

日時：令和4（2022）年9月17日（土）　16:00～21:00
　　9月18日（日）　16:00～20:00
場所：なるぱーく

ブースを出展しSDGsの取り組みをPRしました

幅広い世代に
SDGsな街づくりをアピール

近隣にあるショッピングセンター「なるぱーく」で開催された「なるみ祭り」にブースを出展。目的は、地域の人々に向けて「片平学区ローカルSDGsプロジェクト」の取り組みを知ってもらうことです。こどもから大人まで、幅広い世代の方々に興味を持ってもらえるよう、「SDGsガラポン」や「SDGs未来マップ」など工夫を凝らしたさまざまな展示を行いました。

トーク＆セッション

～みんなで話そう！～学校×地域
SDGsトーク＆セッション

日時：令和4（2022）年11月23日（水祝）　13:00～15:00
場所：片平ふれあいセンター

学校と地域をテーマに意見を出し合いました

SDGsを軸にこどもと
地域が一緒にできることを考える

学校や地域という観点からSDGsについて考える環境学習会として、スペシャルトークとワークショップの２部構成で行われました。

第１部では「千鳥丘中学校でのSDGs」をテーマに同校の佐藤彰洋校長が講演。「学校、地域、社会全体で、みんなが多様性を認め合うことが大切」などと話しました。第２部は「みんな事ワークショップ」。会場を８つのグループに分け、「こどもたちと一緒にできること」をテーマに話し合いました。

こども向けSDGsイベントも同時開催！

この日はこども向けのSDGsイベントも同時に開催。多数のこどもが来場し、「ゴミ分別クイズ」や「SDGsかるた・すごろく」など、遊びながらSDGsへの理解を深めました。

マルシェ

KATAHIRA SDGs マルシェ&トーク

トークイベントも行いました

日時：令和5（2023）年2月11日（土祝）　10:00～16:00
場所：片平ふれあいセンター

開催概要

SDGsをテーマにヒト・モノ・コトが繋がる1日に

出展者が自ら生産した農産物や食品などを持ち寄るSDGsなマルシェを中心に、ステージあり、トークあり、ワークショップありの誰もが楽しめるイベントが初めて開催されました。目的は地域の資源（ヒト・モノ・コト）を有機的に繋げることです。

マルシェには合計26の学区民や学区を支える人々のブースが出展。採れたての新鮮野菜、学区内で採れた小麦から作った自家製パンのほか、ハンドメイドのアクセサリーや手作りおもちゃ、ネイルや足裏マッサージ、整体サロンなど、多種多様な企画が並びました。

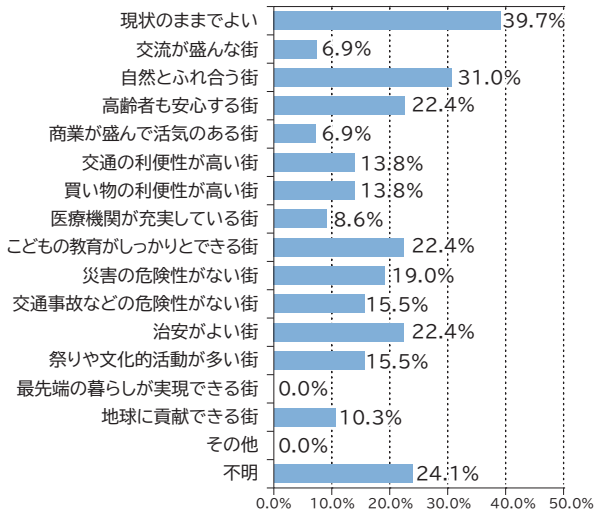
このほか、ステージイベントやトークイベントを開催。地元の緑区民をはじめ、老若男女問わず多くの来場者で会場は1日中賑わいました。

未来づくりアンケート集計結果

誰もが住み続けたくなる街づくりを進めるためには、まず住民の意見を知ることが大切です。そこで片平学区ローカルSDGsプロジェクトでは、片平学区の皆さんが今の暮らしや生活習慣についてどんな感想を持ち、未来の学区はどうあってほしいと考えているのかを調査しました。調査対象はなるみ祭りの来場者、千鳥丘中学校の生徒、学区住民など。それぞれの結果をまとめた「未来づくりアンケート」の中から一部を抜粋し、紹介します。

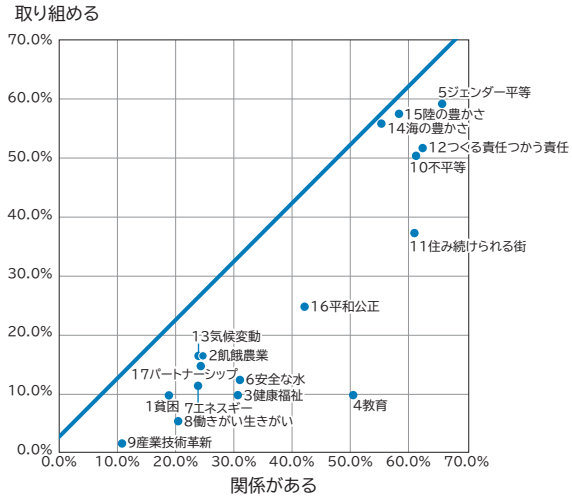
【 アンケート① 】

対　象　なるみ祭りブース来場者（片平学区民）
実施日　2022年9月17日、18日
回答者　10代以下58人、20代以上43人
質問内容　未来の片平学区はどうあってほしいか（10歳代の回答）



【 アンケート② 】

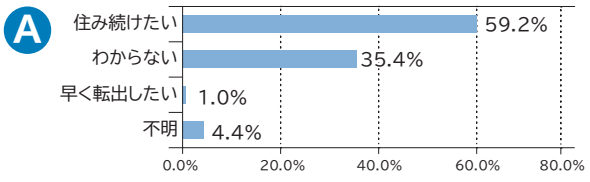
対　象　千鳥丘中学校の生徒
実施日　2022年12月
回答者　１年生から３年まで298人
質問内容　①自分に関係があるSDGsは
②達成に向けて取り組めそうなゴールは

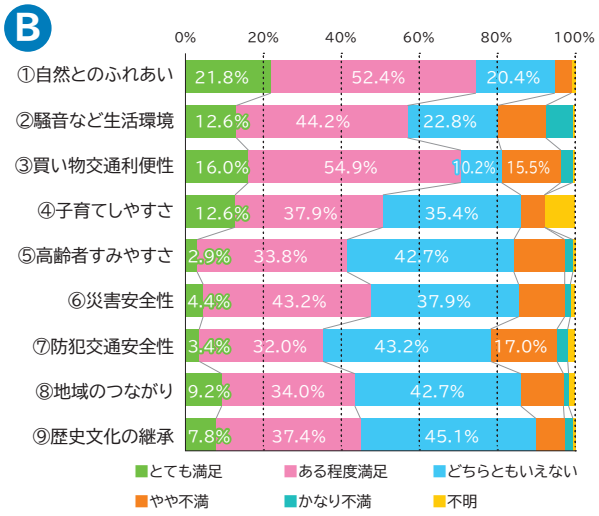


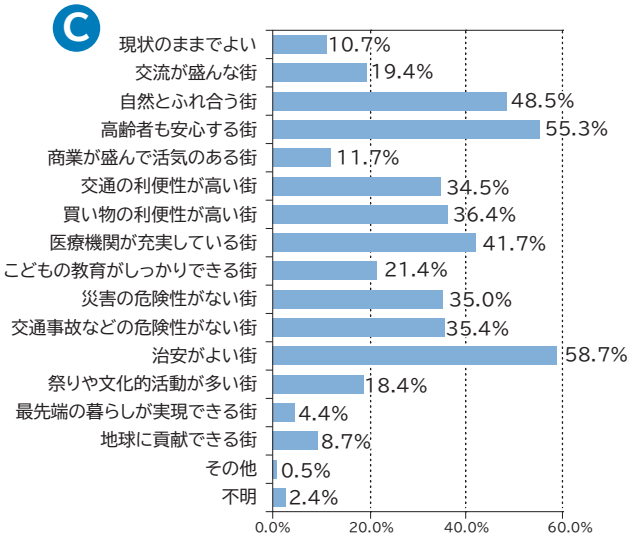
【 アンケート③ 】

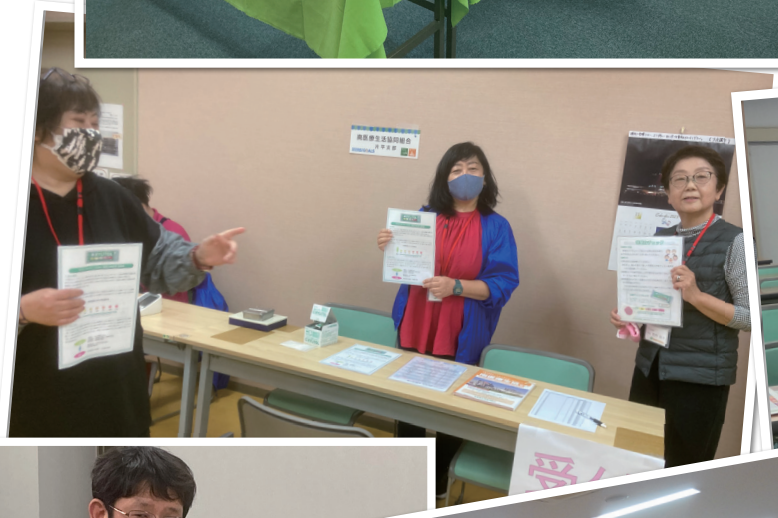
対　象　片平学区住民
実施日　2022年10月～11月
回答者　片平学区住民206 人

質問内容
A 今後も住み続けたいですか？
B 生活環境評価
C 未来の片平学区の姿



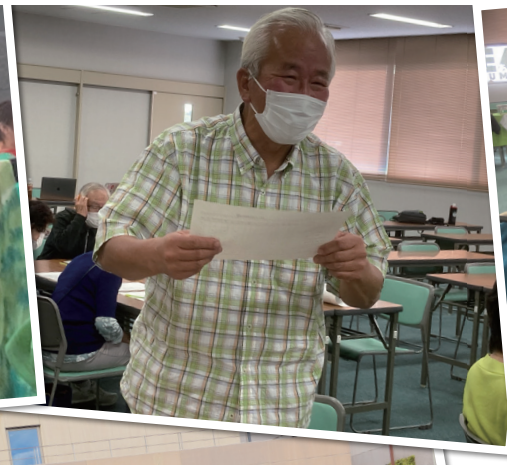






フォトギャラリー

ニコあふ



ニコ笑顔がれるまちに

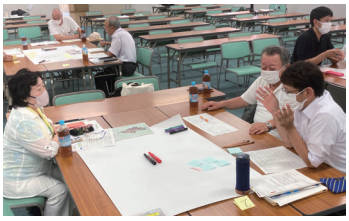
2023年度の活動

片平学区ローカルSDGsプロジェクトの最終年となる2023年度は、学区独自の目標となる「片平ゴールズ」の取りまとめが行われました。「す・み・た・い・ま・ち・か・た・ひ・ら・に」を頭文字とする１１ゴールの素案が提示され、多くの住民が参加したワークショップで議論を深め決定していきました。

ワークショップ

みんな事ワークショップ

第１回 日時：令和５（2023）年６月24日（土） 10:00～12:00
第２回 日時：令和５（2023）年８月１７日（木） 10:00～12:00
第３回 日時：令和５（2023）年10月25日（土） 13:30～15:30
場所：いずれも　片平ふれあいセンター



3度のワークショップで意見を出し合いました

片平学区でSDGsな街づくりがスタート

「片平学区ローカルSDGsプロジェクト」では、2023年度に３回にわたって「SDGsみんな事ワークショップ」を開催しました。

１回目のワークショップでは、前年度に実施したアンケートを踏まえて提示されたゴール案について、グループで討論をし、意見を出し合いました。

２回目のワークショップでは、１回目の意見を踏まえ11の独自ゴールが提案されました。住み続けられる学区となるための住民たちの共通認識となる街づくりのキーワードを参加者みんなで考えました。

３回目のワークショップでは、２回目のワークショップで出た意見を踏まえて修正した独自ゴール案を提示。グループに分かれて議論を行い、ゴール案に対する意見を抽出しました。

イベント

なるみ祭り

日時：令和5（2023）年8月5日（土）　16:00～20:30
　　8月6日（日）　15:30～20:00

場所：なるぱーく

ブースを出展しSDGsの取り組みをPRしました

なるみ祭りへのブース出展

昨年に引き続き、近隣のショッピングセンター「なるぱーく」で開催された「なるみ祭り」に出展。プロジェクトの啓発や進捗状況の説明や、ペットボトルの底を利用したキーホルダー作りのワークショップを開催しました。ブースには水素を使って走る燃料電池自動車「MIRAI」も展示。ブース内で使用した電源は、「MIRAI」の外部給電機によって補われるなど、エコなブース運営が行われました。

実証実験

アルミ缶拠点回収プロジェクト

日時：令和5（2023）年7月～令和6年1月

学区専用のアルミ缶回収ボックスを設置しました

学区で出た資源は学区に戻す

地域外の人が資源回収ステーションなどに出されたアルミ缶を持ち去る例が多発していることから、持ち去りを防ぐため片平集会所に学区専用のアルミ缶回収ボックスを設置し、アルミ缶を集める試みを行いました。
期間中に回収したアルミ缶は合計370kg。学区で出た多くの資源が、他地域に持ち去られることなく済みました。実証実験で得た収益は、片平学区連絡協議会を通してすべて学区に還元されます。

コラム

千鳥丘中生の力作 SDGsかるたが完成

SDGsを軸にこどもと地域が一緒にできることを考える

総合的な学習の時間でSDGsに関する学習に全校を挙げて取り組んでいる千鳥丘中学校で、生徒の手作りによるSDGsかるたが完成しました。目的は、SDGsへの理解をより深めること。

全校生徒から読み句を募集。50音全てが出揃った読み句を受けて美術部員がイラスト化し、オリジナルのかるたが完成しました。2月には新入学を控えた小学6年生がSDGsかるたを体験する取り組みを実施。児童たちは「とても楽しかった」「絵がかわいかった」など、楽しげに感想を語っていました。

KATAHIRA SDGs マルシェ

多くの人が買い物を楽しみました

日時：令和5（2023）年11月23日（木・祝）　10:00～16:00
場所：片平ふれあいセンター

開催概要

秋晴れの下、笑顔の花咲く

2023年2月の初回開催に引き続いて、2回目となるSDGsマルシェが開催されました。

マルシェには、手作りの自慢のお菓子やパン、手作りの手芸小物や環境について楽しみながら学べるブースなど、合計22ブースが出展。秋晴れの絶好の天気の下、こどもから高齢者まで、さまざまな年代の人たちが買い物を通しての交流や同時に行われていたスタンプラリーを楽しみました。

このほか、ステージでは、チームみどりっちが迫力のある演舞を見せ、会場を盛り上げていました。

イベント

Wendeヴェンデ2
未来へのアプローチ映画上映&トークセッション（片平学区環境学習会）

日時：令和６（2024）年1月27日（土）　13:30～16:30
場所：片平ふれあいセンター

2年間の集大成。学区独自のローカルSDGs「片平ゴールズ」を宣言

片平学区ローカルSDGsプロジェクトの最後を飾る環境学習会が行われました。中心となってプロジェクトを推進してきた杉野友昭・片平学区連絡協議会会長が「す・み・た・い・ま・ち・か・た・ひ・ら・に」を頭文字とした11のゴールからなる「片平ゴールズ」を宣言。「これがゴールではなく、スタート。ここからが大切」と呼びかけました。

環境学習会には、千鳥丘中学校の柴田裕通校長と、片平小学校の立花賢修校長から、それぞれの学校で行われているSDGsの取り組みについてお話しいただくとともに、地域と一緒にできることを話し合いました。

また、地球温暖化対策に取り組む人々を紹介するドキュメンタリー映画『Wende（ヴェンデ）2』も上映され、この映画に出演した杉山範子さん（東海学園大学 ともいき教養教育機構副機構長、教育学部教授）をゲストに招いて、トークセッションも行いました。

SDGsについて語り合う

多様性を尊重する人間を育てる

千鳥丘中学校長 **柴田 裕通**さん

学校教育とSDGsは非常に相性が良いと考え積極的に取り組んでいます。生徒たちには多様性を認められる人間、自分で考え行動できる人間に育ってほしいと願っています。

地域の人々とさらなる交流を

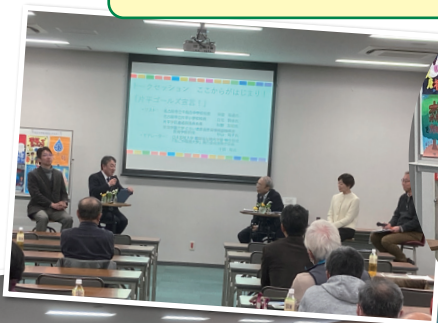
片平小学校長 **立花 賢修**さん

各学年で地域の史跡を巡る学区探検を行っています。その際、地域の皆さんから詳しい話を伺う機会を作るなど、地域の人々と交流を深めていきたいと考えています。

社会の仕組みを変えていこう

東海学園大学 ともいき教養教育機構副機構長、教育学部教授 **杉山 範子**さん

レジ袋を断ったり、マイボトルを持ち歩いたりするだけで満足している人が多いことが心配です。社会の仕組みを変え、新たな制度を作っていく必要があります。



片平ゴールズ

片平学区独自のSDGs「片平ゴールズ」

2年をかけてより良い地域を目指し住民同志で話し合いを重ね完成！

「すみたいまちかたひらに」というキーワードの頭文字から連想される11のゴールが設定されています。それぞれのゴールとその解説は以下の通りです。

「す」
進めよう！学校・家庭・地域の連携を

解説 学校を地域ぐるみで応援するとともに、地域や家庭が連携して、こどもの育ちや多様な学びを応援し、時代を担う片平っ子を応援しましょう。こどもの学びは大人にとっても学びの機会となります。

「み」
みんなで身近に緑と花づくり

解説 旧東海道を花と緑でいっぱいにしよう、という初心を忘れずに、学区全体を、身近に緑を感じ、花があふれる街にしましょう。

「た」
たくさん創りたい、生き物と出会える場所を

解説 生き物と出会いやふれ合いは、大人にとっても、こどもにとっても大切な機会、体験です。成海神社などの地域に残る森や公園はもとより、家庭植え込みやベランダの緑、事業所の緑化スペースに、色々な生き物と出会える工夫としかけを考えましょう。名古屋市では生物多様性なごや戦略実行計画2030が策定されました。片平学区も、その先頭に立ちます。

「い」
一緒に参加しよう健康づくり

解説 すべての人がいつまでも元気で社会とかかわりあいながら過ごせるように、健康寿命を伸ばしましょう。そのために、様々な健康づくりの機会を増やし、みんなで取り組みましょう。

「ま」
まつりと伝統文化を受け継ごう

解説 千鳥塚や赤塚古墳などの歴史遺産、鳴海祭などの伝統的なまつり、旧東海道などの史跡を大切に次世代に受け継いでいきましょう。

「ち」
地産地消、朝市で語ろう

解説 身近に取れた農産物をみんなで意識して消費し、地域の農業を応援し、地域の輪を広げ、食料自給率の向上に貢献するくらしを実現しましょう。朝市は片平学区の私たちにとって、とても大切な語らいと交流の場でもあります。

「か」
快適・便利 まちなか居住

解説 買い物、医療など暮らしを支える機能の充実と、高齢者を含めて交通弱者を生み出さないように都市機能を整備・維持し、利便性と快適性を兼ね備えたまちなか居住を実現しよう。日頃から防災、減災の準備も万全にします。

「た」
楽しく進めるゼロカーボンなくらし

解説 LED化やアルミ缶リサイクルに加えて、新しい技術も取り入れ、ワクワク楽しみながら、二酸化炭素の排出を可能な限り減らし、緑による二酸化炭素の吸収と合わせて、ゼロカーボンな暮らし方を実践しよう。さらに、食材を無駄にせず、家庭や飲食店、小売店で食品廃棄をゼロにしよう。こども食堂も積極的に支援を。

「ひ」
広げようつながり、深めようきずな

解説 誰一人取り残さないという国連SDGsの基本原則は片平にとっても大切。こどもから高齢者まで地域に居場所と安心感がある街にするため、つながりときずなを合言葉に地域を元気にしていきましょう。

「ら」
らしさを大切に

解説 ジェンダーや国籍を理由として選択肢を狭められることなく、すべての人が自らの未来を切り開いていけるようにします。千鳥丘中学生も取り組んでいます。

「に」
ニコニコ笑顔があふれる街に

解説 心と体の健康、人と人との出会いとつながり、すべては笑顔から始まります。これまでも片平学区が大切にしてきたキーワード。まずは笑顔でこんにちは。

KHG's SDGs

まとめ　プロジェクトメンバーからのメッセージ

片平学区ローカルSDGsプロジェクトの運営に携わったメンバーから、2年間の活動について。

一人ひとりが考え、実行して共有することが大切

片平学区ローカルSDGsプロジェクトリーダー
千頭 聡氏（日本福祉大学国際福祉開発学部特任教授、「なごや環境大学」実行委員会実行委員）

SDGsは、国連が、世界に住むすべての人々が幸せになり、自然や地球の環境を破壊することなく生かしながら、元気な地域を創り出すために定めた17の目標です。私たちが2年間取り組んできた片平ローカルSDGsプロジェクトは、この考え方を身近な片平に当てはめるとどうなるかを考えて、進めてきました。

ずっと住み続けたいと感じることが出来るような街とはどんな街なのか、片平のみなさんと一緒に考え、目標として組み立てたのが、11個の「片平ゴールズ」です。片平ゴールズは決して、降ってわいたゴールではなく、実は、今まで片平のみなさんが取り組んできた様々な活動の延長上にある街づくりの目標です。

2年間に、みなさんと一緒にワークショップや環境学習会、マルシェなど、色々な活動に取り組んできました。また、住民や中学生にもアンケートを通じて色々な考えをお聞きし、まとめてきました。これらの活動を通じて、持続可能な街をつくるためには、決して、行政だけが取り組むことではなく、私たち一人ひとりが自分と家族でできることを考え、実行するとともに、それをみんなで共有していくことが大切だと、実感しています。

これからも、人と人とのつながりを大切にしながら、意見の違いと多様性を活かしながら、街づくり、人育てを進めていければいいなと思います。

プロジェクトを通じて多くの人と対話の機会が増加

片平学区連絡協議会会長 **杉野 友昭**氏

プロジェクトを行い、情報発信やイベント、対話の機会が増えたことにより、多くの人の認識が深まり具体的に考えてくれる人が増えたと感じています。

また、取り組みを通して小学生や中学生のこどもたちはすでにＳＤＧｓを勉強して大人の先を進んでいることを知ることができたほか、情報を発信するだけでなく、がんばっている人たちの情報を受信することもできました。そして、プロジェクトを通すことで、いままでつながりきれなかった企業さんや団体さんとも、具体的にご一緒することができ、つながりの強化ができました。

折々で豊かな知見と、あたたかいメッセージで学区の人々を導いてくださった千頭先生とご参加、ご協力いただきましたすべての皆様に感謝を申し上げます。

片平ゴールズを通して次世代によい関係性をつなげたい

片平学区ローカルSDGｓプロジェクトチーム
松本 イズミ氏
（NPOフィトラボ代表、「なごや環境大学」実行委員会実行委員）

片平学区の街なみ、雰囲気、とても好きです。それはきっと、ここに住まう人たちが常に街のこと、お互いのことを気にかけながら暮らしているのだろうな、と感じるからです。

学区のみなさんが大切に育んできた人との関係性や作り出された街なみや文化が、このプロジェクトを行ったことにより、より拡がりをみせ、発展的に次世代にもつながるように片平ゴールズを通して、つなげていきたいですね！

他人事から自分事、そしてみんな事への変化を実感

「なごや環境大学」実行委員会事務局

本プロジェクトは、2022年8月9日にスタートしました。持ち寄り型マルシェ等のイベントや住民参加型のワークショップを重ねていく度に、住み続けたい街片平をつくるため、活発な意見や提案等が出るようになり、まさに、「他人事から自分事、そしてみんな事へ」と変わって行くのを感じました。

片平学区連絡協議会をはじめ、地域の市民団体・企業・学校等、多くの皆様にご尽力いただきましたことを感謝申し上げます。

SPECIAL THANKS

本プロジェクトに参加・協力してくれたみなさま

（五十音順、敬称略）

アイビス徳重
空き缶風車の工作の森主さん
いちご（株）なるぱーく
A型事業所ウル
NPO）かたひらかたろう
己書 夢希道場
片平学童保育所たけのこ
株式会社五大
株式会社鳴海クリーンシステム
グループホームアルブル（aruburu）
Komugi（ネイル）
小麦の奴隷
社会福祉法人ニコニコハウス
ジャムおばさんのアトリエ
たまり場 いっぷく茶屋
チームみどりっち
東海学園大学ともいき教養教育機構
特定非営利活動法人海の自然史研究所
なごやかクラブ片平（老人会）
名古屋国際中学校・高等学校
名古屋市環境局事業部作業課
名古屋市環境局施設部工場課
名古屋市立片平小学校
名古屋市立千鳥丘中学校
なごや竹和会
NARUMI弥生の丘
ハンドメイドモモ
平安会館浦里斎場
普通の生活に取り入れる護身術の中村さん
鞠奴パン食堂
岬だより
緑環境事務所
緑区社会福祉協議会
緑区役所
南医療生活協同組合 片平支部
南知多観光協会
野菜販売の佐藤さん
ゆたか福祉会 ゆたか希望の家
Larimar（ラリマー）
Le grace
リンパ・整体 整体院 松
ワークセンターメイプル

片平応援団のみなさま
片平ふれあいセンターのみなさま
区政協力委員のみなさま
子ども会のみなさま
保健環境委員のみなさま
ボランティア会のみなさま
マルシェ運営ボランティアのみなさま
民生委員・児童委員のみなさま

プロジェクトコーディネーター　千頭 聡　松本 イズミ

片平学区ローカルSDGsプロジェクト（2022–2023）報告書

発　　行／片平学区連絡協議会
「なごや環境大学」実行委員会（なごや環境大学SDGs未来創造クラブ）
〒460-0008　名古屋市中区栄一丁目23番13号 伏見ライフプラザ13階
TEL/FAX 052-223-1223
発行年月／2024年３月